三池闘争 二十周年

はじめに

三池闘争二十年。その二十周年を迎えて、三池闘争を回顧することの意義ははかり知れぬ重さをもっています。労働運動をすすめるうえで、尽きることなき教訓をもつからです。本紙はこの機にこの欄を企画、いろんな経験を、いろんな先輩や仲間に語ってもらうことにしました。

はじめは、何といっても今は亡き宮川元組合長です。果たして、三池闘争をどう見ていたか。次は一九七一年の九月発行の雑誌〝三池文化〟（大牟田）が、故・宮川元組合長と行った交流の際の発言の一節です。以下、連載となります。

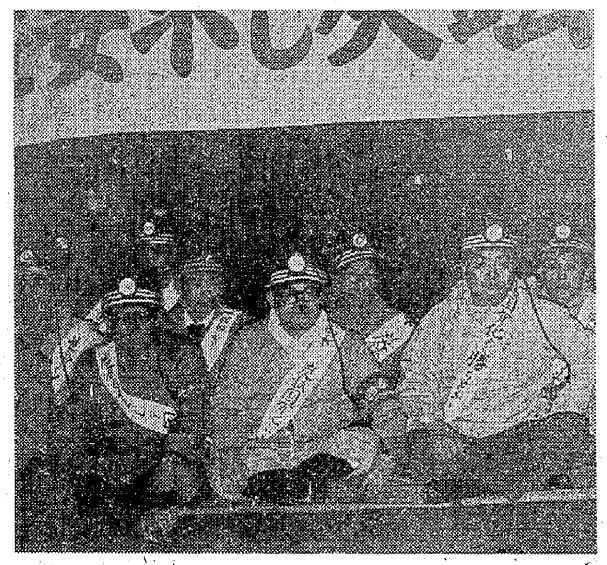
たとえぶつかっても……

この覚悟でこそ湧いた力

……だから三池の職場闘争をぶっつぶすという問題は、ひとつは日経連の前田専務が言ったように三池の職場闘争は革命の児だという意味で地域社会の運動にまでふくれてね、日本中に広まるということを資本家として危機感をもったんですね。

そういう危機感のもとに、たまたま貿易の自由化というのが問題になってきたこと、安保条約を改定して新しい日本の軍事基地化なり、経済に対する位置づけというものを規程するのが安保条約の改定だったですからね。貿易の自由化ということをやらなければ、資本主義自体の矛盾の拡大に対処できなくなってきたと思います。

その貿易の自由化という問題に対して何が一番問題かというと、合理化を徹底して国際競争に打ち勝つということです。そのため、いかにして安い労働力と安いエネルギーで生産を高めるかで、彼らの目標とします石炭政策と合理化はここから本格化するわけです。



政策実現めざす闘いで、坑底に座り込んだ故・宮川元組合長（中央の人）。

この目的を達するため、三池労組の職場闘争をぶっつぶすため、活動家を指名解雇することを決意したわけです。総資本が結束して三井を支援する体制をつくり、政府も一体となってしかけてきた攻撃が三池闘争の本質でした。そのために、先ず総資本で三井に協調資金五十億円つくること、そして三井の市場は荒さないで補償してやることなどを決め、政府は政府としていろいろ準備していたようです。

三池の闘いと安保が結合されてほんとに燃え上がったきっかけ……になったといっちゃいかんけれども、やっぱり久保さんが殺されたことね。久保清さんがあの暴力団から刺し殺されたことはね、やっぱりこれは「資本家というのはけしからん！」というこの怒りがね、ほんとに労働者的本能というか、階級的本能かも知らんが、怒りというのがパアーっと上がったことが、安保も盛り上がらせたし三池の闘いも盛り上がらせたという気がしますね。

そういうことから逐次盛り上がって、最終的に岸内閣も退陣せざるを得ないということになって、池田内閣が事態収拾ということで中労委にあっせんを命じ、そのあっせん案で事態を収拾しようとしました。

……ホッパー決戦のとき私たちは「来るなら来てみれ！　やってやる！」という決意があってはじめて、やっぱりむこう自体がぶつからんように、となるんじゃないかというふうに、「ぶつかっても止むを得ん！」、というふうに決意をせんならんね……。

三池闘争の想い出

——当時のメモのなかから——

八分会（三川）　松永一郎

▼…三池闘争中の、小浜南社宅の〝炭っ子グループ〟が、闘争支援に全国各地からかけつけてくれるオルグさんの送り迎えに、よくうたっていた歌——

〽父さん、母さん
　ピケにいった
　ぼくらは今日もおるすばん
　みんな仲良く元気よく
　ケンカしない子、よい子供
　このうたを聞いて、オルグたちも安心して帰っていった。
　オルグ、オルグ、オルグ……。
　勢力を増しつつ、ホッパー決戦へと前進する。

×

▼…職場闘争の中では、必ずうたった組合歌——

〽みんな仲間だ、炭掘る仲間
　ロープ延びきる真卸切羽
　未来の壁にたくましく
　このツルハシを打ちこもう

人車のなかで、組合員みんないわく、「もっと職場で取り組むべきだ」。そうだ、そうだ。

×

▼…忘れられない、支援オルグの人、人、人——

「労働者は、やはり一本であることが大切です」、かってのオルグより便り。

〽がんばろう、つきあげる空に

×

▼…川柳三つ——

スクラムで育った三池のこの姿
全国の友に守られ二十年
なつかしの涙で交わすこの握手

（以上は、メモのなかから）

おねがい

組合員・家族の皆さん、三池闘争から二十年たちました。

三池闘争のとき、それからその後の苦しい闘いのとき、思い出は尽きないことでしょう。また、そっとしたための記録や資料もおもちと思います。

そんな思い出や記録のなかから本紙を通じて、全国の仲間に知ってもらいましょう。今は、三池闘争を知らない人がたくさんです。

おわび

本紙には手記や、手紙など数多く寄せられていますが、紙面に余裕がありませんでしたから、やむを得ず次号以降にご紹介いたします。

編集部

民主的な配分を

炭労が期手闘争を妥結

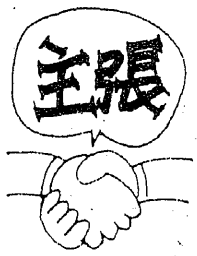
炭労は、かねて四十五万円の期末手当を石炭資本に対して要求、体制を固めながら団体交渉を続け闘ってきた。

その結果、実力行使を目前とした十一月二十五日、資本側が出してきた三十八万九千円の回答をもって妥結、闘いを終結した。

組合は、二十六日ただちに組合として、民主的な配分の仕方を会社側に申し入れた。

自らの経験は教える

三池闘争二十周年を迎えて



一九六〇年。三池と安保の闘いは、総資本対総労働という、かって日本の労働者が経験したことのない、階級的で政治的な闘いにまで発展し、その力がついに岸内閣を打倒、一人の労働者をクビ切ることがいかに大きな代償を支払わねばならないか、ということを政府・独占に思い知らせたものだった。

人間のいのちは「地球よりも重い」、といわれる。働き続け、生き続ける労働者として、それほどの重さをもつ人間の権利を主張する職場闘争で、まさに中心的な役割を担い、とりわけ人間らしく勇気をもって闘っていた職場活動家——千二百名の指名解雇を撤回させることこそできなかったもののこの闘いが、労働者のいのちと権利を守り、労働組合運動・職場活動の自由と民主主義を守るうえでどれほど尊く、比類のない闘いだったかを知るわれわれは、決して敗北感などなかった。いな、今日でもなお高き誇りをもっている。

闘いのなかで、われわれは事実が示しているように目先の利害にだけとらわれず、働く者の当然の権利を主張し、許されぬ独占資本の支配体制を打ち砕き、安心して暮らせる社会への展望を切り開くためにこそ、仲間同志助け合い、働く者の固い団結を築きあげ、さらに全国の働く仲間と連帯し、共闘をもって闘ったのであった。

強まるか攻撃

ところで八〇年代は、日本資本主義の矛盾がいっそう深まる時代といわれる。

さきの衆・参両議院のダブル選挙で、保守の自民党が圧勝し、革新側は敗北した。独占資本と自民党政府はその余勢をかって、勤労大衆に対する抑圧と搾取を強め、政治反動を推し進めるだろう。

七〇年代後の長期不況を減量合理化で乗り切った独占資本は、七九年には史上空前の利益をあげ、とりわけ八〇年三月期の決算は、前年同月比で一四・五%も上回る増益をあげている。だが、同時期に労働者の実質賃金は三・五%も低下しているのである。このことは、年に八%ものインフレ・物価高と合わせ、働く者の暮らしがいかに苦しいものになっているかを示す証拠である。

またここ数年来、資本の正常化攻撃が強まるなかで、われわれのいのちと権利の破壊もいちじるしく進んでいる。職場の労働者の苦しみや怒りは、やり場のない状態のままである。三池の闘いのなかで、独占資本は、労働者の生活権・生存権を奪い、そして肥え太っていくのも学んだ。定年を目前にするある新労組員はいう——

「ボタかぶって、死ぬかも知れん。死なんでも、このままでは人が減らされるばかりで、なま殺しになってしまう。だから、坑外にあがったつたい」

聞けば、坑内労働から坑外労働に移るにも、職制に対して飲ませ食わせする金が必要だったとか。

経験は教える

ともあれ、資本のはげしい攻撃のなかで、三池で組織と団結が分断され、また闘いは一進一退をくり返している。だがわれわれは、自らの生活と労働実態を見つめ直すとき、何はさておき闘う根拠を確立しなければならない。また、「闘いのなかでこそ、展望を切り開くことができる」ことを、われわれ自身闘った三池闘争の経験が教えている。

なかま

職場二十四分会（本所）　西村　正之　さん

▼…三井三池鉱業所の中心部の本社のなか。健康保険には二人の仲間が働いておられます。

そのうちの一人——西村正之さんは、この職場にすでに三十三年、健康保険事務のベテランです。

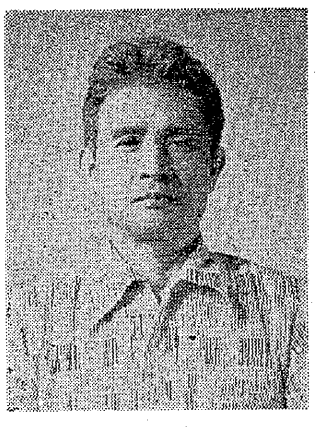
来年の七月に定年。今までは分会の役員で、果たされた役割は大きかったのですが、今期は一分会員として頑張っておられます。

▼…来年の二月、荒尾市で市長選挙が行われますが、西村さんは政治闘争を進めるなか、校区組織づくりに中心となって活躍され、今では校区組織の会長の重責にあります。まさに、荒尾市長選挙の前哨戦から闘っておられるのです。

▼…趣味もまた豊富で、とくに尺八は師範の腕前です。「昭和三十四年に、都山流の師範の免許を取るために、やっときびしい難関を突破することができました」、との話。

その他釣りに囲碁など。

▼…奥さんは、荒尾郵便局勤務。全逓婦人部の活動家です。それに息子さんが荒尾労金勤務。一家打ち揃って、労働者解放のため献身されています。



西村さんの住所は、荒尾市大和区川登990番地。奥さんに息子さん、娘さんと4人暮らし。